



# 碧南ロータリークラブ週報

第2350回例会 平成19年2月14日(水)

● 会長 杉浦健次 ● 幹事 石川春久 ● 会場監督(SAA) 棚田道和

■ 例会日 毎週水曜日 12:30 ■ 例会場 碧南商工会議所ホール

■ 事務局 碧南商工会議所内 〒447-8501 愛知県碧南市源氏神明町90

TEL <0566> 41-1100 FAX <0566> 48-1100

ホームページ: [http:// www.hekinan-rc.jp/](http://www.hekinan-rc.jp/)

E-mail: [info@hekinan-rc.jp](mailto:info@hekinan-rc.jp)

■ 会報委員 角谷信二・新美惣英・清澤聡之

2006~2007年度  
国際ロータリーのテーマ

**LEAD THE WAY**

**率先しよう**

できるひとが  
できるときに  
できるところで



## ● 斉 唱

ロータリーソング「我らの生業」

## ● 本日のメニュー

和風弁当 大正館



杉浦 求副会長

## 副 会 長 挨拶

本日、会長が不在ですので代わってごあいさつ申し上げます。

本日2月14日はバレンタインデーで、日本では女性から好きな男性に対してチョコレートのプレゼントをするという慣わしがありますが、大半の諸君は義理チョコに泣かされているのではないのでしょうか。男性は翌月の3月14日には義理で頂いた御礼に何倍かの品をお返しする、貰うのもうれしいがお返しをするのも大変だという日でございます。バレンタインデーはどのような日かと申しますと、ローマのキリスト教徒の物語から男女相愛の日とされ、2月14日は一度破れた恋もこの日に祈るとまた元に戻ると言い伝えされる日であります。お隣の中国では独り者の男性が女性に対して食事に誘ったり、バラの花をプレゼントして自分の気持ちを表現するというので、バラの花が通常の5倍の値段で売られているそうです。女性から男性に対するプレゼントはほとんどありません。中国では3月14日にお返しをするという事は無いようです。その中国の話をしさせて頂きます。人口は日本の約10倍の12億7千万人、国土はロシア、アメリカに次いで世界第3位の大国で日本の2.5倍の広さがあります。日本の国民総生産が500兆円少々に対して、中国は300兆円と言われているが、日本が400兆から500兆円になるのに9年かかりましたが、近年毎年10%の上昇が続けば今から6年で日本のGNPを追い越します。現在、中国では車ブームに沸いております。昨年の販売台数は日本を抜いて世界第2位の700万台の登録があり、2020年にはアメリカを抜いて年間2000万台の予想がされています。上海で車を買いますとナンバープレートをつけてもらうのに、月間2,000台しか登録できません。そのナンバープレートを貰うために入札します。一般的にいわれている入札価格は約4万円(日本円で60万円)です。上海で登録するとどんな特典があるのかと申しますと、上海ナンバー車専用の道路を利用できるということです。今でも上海では大渋滞が起こっているのに、これ以上の登録がされたらどうなるのか心配です。中国の物価ですが、レギュラーガソリンが1リッターあたり66円、ミネラルウォーターが15円、コカコーラは30円、ビールは25円という風に私たちからみれば随分安い。給料も現時点で、年間29万円位で日本の500万円位の1/17ですが、毎年このように上昇すれば15年で150万円、さらに為替が変わればこれ以上になる可能性もあります。

## 幹事報告

- ・他クラブの例会変更等につきましては幹事報告の通りでございます
- ・2007～2008年度 役員・理事・委員会編成表の案内
- ・5月6日地区協議会のご案内と出席の依頼



石川春久幹事



石橋嘉彦副幹事

## 委員会報告

### 〈出席奨励委員会〉

総会員数 79名 (内出席免除者 13名) 出席者 59名	
出席対象者 51/66名	出席率 77.27%
欠席者20名(病欠者0名)	前々回修正出席率 100%

### 〈ニコボックス委員会〉

※三週連続出席率100%の場合は記念品を差し上げます。

- 岡島 淳一君 昨日坂東英二さんがTV取材で会社に来ましたが、帰るまでしゃべりまくっていて、その多弁さに驚きました。
- 長田 昌昇君 黒田昌司様始め皆様にお世話になりました。  
加藤丈太郎先生にお世話になりました。
- 黒田 昌司君 参加者の方々の協力により、無事、研修旅行を終えることが出来ました。
- 犬塚 敦統君 3/21、22、23青森県の木村秋則さんが愛知県に来て頂けます。5回位講演を予定しています。ご参加下さい。
- 鈴木 輝彦君 長田昌昇さん、黒田昌司さん、竹中義雄さんにお世話になりました。
- 木村 徳雄君 ご無沙汰していました。
- 平岩 辰之君 先週長田昌昇さん、黒田昌司さん、竹中義雄さんにお世話になりました。有り難うございました。
- 角谷 修君 本日卓話にて「私の履歴書」をご静聴を頂きますよう、お願いします。
- 黒田 泰弘君 本日、卓話をさせて頂きますので、よろしくお願い致します。

### 〈親睦活動委員会〉

4月21日 春の家族会の案内と参加の依頼

## 卓話

### 「私の履歴書」会員 角谷 修君

私の履歴ですが、昭和35年10月に碧南市籠田町に父 齊、母 二子子の中に長男として誕生しました。角谷家にとっては、久しぶりの男の子ということで幼いころは両親及び祖父母に大変可愛がられました。小学校は地元の新川小学校に通い、ちょうど、木造校舎である口の字校舎から鉄筋校舎に変わった年代です。中学校は新川中学校に通い、高校は名古屋の千種にある愛知高校へ毎日2時間を通いました。高校2年生の頃から、「獣医になって、自然保護区で働きたい・・・」とその当時は、何を考えていたのか、獣医になる為に大学受験に頑張っていました。でも、受験に落ちあくる年は予備校に1年通いました。でも、場所が名古屋という繁華街、学問より遊びを学んでしまい、学力は低下する一方でした。その為、翌年の受験はしかたなく、県内にある医学系の大学と東京の獣医学部のある大学を受験しました。東京の大学を受験した時、面接試験にまでいきましたが、若いから「後先考えず、答えた面接質問が・・・後



悔です」その結果、県内にある保健衛生大学の臨床検査学科に通うことになりました。この大学4年間は実習を通し、私にとっての「人間形成の場」としては大きな影響をあたえる場になったとおもいます。こうして、学生時代を無事に終え、就職の段階になった時に両親から「会社を継いで欲しい」と・・・大学までは自由にさせたのだからと・・・言われ。社会人として、このまま医療系の職場に勤めるか、新たな分野での家業を継ぐか・・・悩みました。でも、今までお世話になった両親の思いに碧南運送で働くことに決めましたが、最初の2年間をアイシン精機へ勉強に行けと・・・。アイシン精機で働く頃は、ちょうどバブル後半時で、毎日毎日、夜中まで現場応援と工務の仕事をこなしていました。その当時は大変忙しく、遊ぶ暇もないくらいでした。こうして無事に2年間を過ぎ、当社に戻りました。会社に戻り、平成2年に部長、平成7年に取締役、平成17年に常務となり、現在に至っております。又、私生活では、妻と子供一人で暮らしております。簡単に会社の概要説明ですが、会社名は、碧南運送株式会社、本社は碧南市にあり、豊田市と幡豆郡吉良町、知立市に拠点があります。事業内容は、貨物自動車運送事業、自動車運送取扱事業、自動車整備事業、倉庫事業、自家用自動車管理業、パレット製作・販売業、特定人材派遣業等行っています。主な取引先は、アイシン精機株式会社、アイシン高丘株式会社、アイシン・エーアイ株式会社をはじめ、アイシングループ各社と自動車部品を製造している各社であります。昨年度、平成18年3月末で、売上高は8,182百万円、従業員数は392人、営業車両数は、219台です。

当社の沿革は、昭和29年に祖父である三年の時代に、碧南市の新川に会社を設立しました。昭和36年9月には普通及び小型自動車分解整備事業認証所得、昭和43年1月に、豊田営業所を開設、昭和44年12月には富山県の入善町に富山営業所（現在のサンエツ運輸）を開設。昭和53年4月に本店を新川町から須磨町に移転。昭和55年9月民間車検指定工場免許を取得。平成11年と平成16年に中部運輸局表彰を受けております。最近では平成16年にISO9001と安全性優良事業所指定を受け、平成17年にISO14001を認証取得をしています。今般、得意先の合理化及び環境保全等と厳しい状況の中、「安全を第一とし、お客様の要望に応え、環境保全や地域社会に貢献して、社員と家族が夢と誇りを持てる物流企業を目指す。」を基本に考え、常務取締役で当社の総務及びOAの推進を担当しております。簡単ですが、私と会社の履歴です。今後とも、よろしくお願い申し上げますとともに、ご清聴を賜りありがとうございました。

### 「私の履歴書」会員 黒田泰弘君

本日、「私の履歴書」と言うタイトルでお時間を頂きましたが、大先輩の皆様を前にご披露出来る様な履歴もございませんので、数年先には皆様に自慢出来るような履歴を語れる事を夢見て頑張りたいと思っています。家業の黒田商店について、少しお話させていただきます。現在、私で3代目となりますが、初代は、私の祖父黒田寅吉に始まりました。



初代は明治30年に棚尾で生まれ、幼少期を本家の渥美で過ごし、大正5年に現役兵として豊橋に入隊、除隊後、本家の農業に従事する気がなく、商売を夢見て、大浜に出て来ました。山二木材会社に8年間お世話になり、昭和7年に独立し、杉治さんの麻袋のリサイクルを手始めに金属回収業の創業にふみきました。その後、戦時体勢に入っていくなか、昭和15年に国の要請により金属回収工作隊がつくられ、碧海郡の工作隊長を終戦まで務めました。昭和22年暫く個人企業として再開し、昭和27年株式会社となりました。その年、祖父寅吉は市議員となり、政治の道を歩み進みはじめ、通算で3期務めました。私の母は、棚尾の小笠原タオル工場の末っ子で、嫁いで来るなり、選挙カーに乗させられ、大変辛い思いをしたようです。その頃は、長男が戦死したため、次男で、青山家に養子に行ったおじさんが実質上、黒田商店の運営に当たっていました。

私の父であります三男の黒田芳正にバトンタッチしたのは、私が生まれた昭和36年からで、昭和48年2代目として正式に社長に就任しました。その後、昭和50年、私が中学3年生の時、祖父寅吉は77歳で他界しました。私と碧南ロータリークラブとの初めての出会いは、10年以上前になりますが、現在改装中の旧商工会議所での例会時に、ボランティア団体への寄付金が頂けるとの事でお邪魔致しました。碧南市BBS会と言いまして、早い話が保護司の下請け的存在のボランティアグループで、保護観察中の少年・少女との友達活動をしている更生保護団体です。昭和62年より所属し、私が2代目会長の時に寄付金を頂きました。とてもたくさん頂き、大変助かりました。その時、平岩統一郎さんより「あんた何やとるの」と聞かれた事が印象深く残っています。今こうしてここに立たせて頂いているのも、その時の縁なのかなと不思議に思っています。現在、碧南市BBS会は無くなってしまいましたが、私は今でも西尾市BBS会に籍を移して活動しています。碧南市BBS会の時、私が担当した一人の子は、酔っ払うと夜中の2時でも構わず電話をかけて来て、今すぐ会いたいと言って来ました。当然、家族の怒りが私に向けられ、大変な思いもしましたが、何故かその子は今でも我が社にアルバイトで来ています。また、BBS会員として、度々瀬戸少年院にも訪問致しましたが、激励するつもりが、純粹で一生懸命な少年の姿に教わる事の方が多かったのが事実です。これからは、ロータリークラブのメンバーとして、逆の立場で、一生懸命活動されている各団体の方々に、応援出来る事を嬉しく思っています。最後になりますが、平成2年、父は、念願であったマイホームを建てた直後、57歳の若さで他界しました。私は当時29歳で、3代目に就任し、2年後の31歳の時結婚しまして、3人の子供に恵まれ、現在に至っています。まだまだ若輩者の私ですが、諸先輩方には、今後ともご指導賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

次回例会案内 平成19年2月28日(水)  
卓話「ロータリーの思い出」 会員 永井 一君